

『焚き火』

薪を組み立てて火をおこすプログラムである。空気の通り道を考えながら薪を組み立てることで、燃焼についての理解を深めることができる。思考力、自主性、主体性を育み、協力して火をつけることを通して協調性を養う。

燃えている火を囲みながら、キャンプファイヤーとは違った楽しさを感じるだろう。

【時期】 通年

【所要時間】 1時間以上

【対象】 小学校高学年以上

【定員】 200人（1グループ4～5人）

【準備】 （個人）よごれても良い服装、軍手
（団体）薪、着火剤

※購入を希望する団体は教材等購入申込書を提出する。

薪は団体で用意することも可能。

（自然の家）焚き火台、火ばさみ

【指導】 自然の家職員による指導はなし。

【展開例】

1. グリーンホール、または営火場に集まる。
2. 間隔をあけてグループごとに道具を準備する。
3. グループで活動する。
4. 活動終了後、後片付けや火の始末、整理整頓、清掃をしっかりとる。その後、事務室に連絡を入れる。（また、緊急性の高いアクシデントが起こった場合にも連絡をすぐに入れる）。

【活動の留意点】

1. 薪はあまり高く積み上げると倒れる危険性があるので3段程度にして残りの薪は途中でくべるようにする。
2. 事前にグループ分けを行う。
3. グループ同士の間隔を開ける。



【参考】
教科との
関連

○特別活動 ～校外における集団活動を通して、教師と児童、児童相互の人間的な触れ合いを深め、楽しい思い出を作る。

<薪の組み方（例）>

薪の組み方にはいろいろあり、「これが正解」というものはない。

ただ、ものの燃えるために必要な三要素「燃えるもの」「空気」「点火源」を意識して「燃烧しやすい」組み方を見つけていくことが大事である。



並列型

中央に空洞（炉）
をつくることを意識する。



合掌型

薪木を傘がたたんだように組み立てた
もの。



井形

「井」の字に組んでいく。



井型（ずらし）

左記の「井」の字を段をななめにずら
して組んでいく。



三角組

三角の空洞をつくるように意識して組む。